

令和元年度の教育活動等に対する学校評価書

令和2年3月31日

学校法人象山学園象山幼稚園長 秋山斌

学校法人象山学園象山幼稚園学校関係者評価委員会

1. 本園の教育目標

寄付行為に定めた、教育基本法及び学校教員法に従い、幼児教育を行い、有能な人材を育成することを目的とする。

このために幼児期にふさわしい生活習慣を身につけ、教師との信頼関係に支えられた生活、自然に対する興味や関心を体験させる生活、園児同士とのかかわりを展開する生活がなされるように配慮した幼児教育をめざす。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

地震・津波・火災時の対策：定期的に避難訓練を実施し、避難方法を身につける

園内での職員研修を充実させる

園内の環境整備に力を入れる

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
教育の質向上のために、園内研修を充実させる	A	子どもの姿について話し合う機会として職員会議を実施している。職員全員で援助や指導方法の見直しをし、各園児への指導方法に一貫性を持たせている。 今年度は東海北陸静岡大会が開催され、2日間に渡っ	A	園児についてお互いに話し合い、理解することはとても大切なこと。他園の教諭と話をして関わることは刺激となり、自園の内容見直しにも効果的である。積

		て県内幼稚園教諭向けの研修が行われた。職員の質向上のための研修の機会が複数あり、職員が参加して学びを広めている。		極端的に課題をもって取り組んでほしい。
幼稚園の教育課程に関して教職員間の共通理解をはかる	A	幼稚園教育要領の理解は全教職員で積極的に行い、現実の教育に沿うよう年間指導計画や月案の大幅な書式変更をおこないました。月案を期の案と捉えるよう変更することにより、内容が単発的なものではなく、3年間の幼稚園教育期間を無理なく過ごせるよう、計画を見直すことができた。	A	食育に力を入れ、幼稚園の畑で野菜を育て、収穫したものを食べるなどの様々な取り組みを継続的に行っていることは大変評価できる。今後も継続的に教職員間での理解を深めていってほしい。
施設・設備・遊具の点検や整備	A	チェックシートをもとにして複数の教師でペアを組み施設や遊具の点検を毎月行っている。危険な場所は整備し、業者に修理をお願いするなどの方法で対処している。	A	子どもの安全を守るためには、日ごろからの意識が重要であると思われる。次年度以降も点検をお願いしたい。
地震防災対策	A	以前、専門家に検証して頂いた避難方法やマニュアルを基にし、避難訓練の際に有事の際の対応を見直している。緊急地震速報受信機を利用した避難訓練を毎月おこなって積み重ね、園児もあわてることなく落ち着いて避難を行うことができるようになった。	A	子どもたちの命にかかわる問題なので、保護者も幼稚園の防災に対する取り組みには関心を持っていると思われる。今後も続けていただきたい。
地域との連携について	B	子育て支援として、地域の未就園児に毎日園庭を開放して園庭の遊具や室内で自由に遊べるようにしている。また、イベント日には催し物をし、たくさんの親子に参加していただいている。職員の半数は沼津市外在住のため、どうしても幼稚園周辺地域への関心が薄くなってしまっている。	B	気軽に親子で遊びに行ける公園が幼稚園周辺にはないので、遊び環境が整った幼稚園はとても安心して遊びに行ける場所になっていると思われる。

園に対する保護者の満足度の把握	A	保護者にアンケートを実施し、保護者の求める幼稚園の姿・要望を聞いている。前年度のアンケート結果を踏まえ、できる範囲で要望を取り入れてきた。今年度の大きな変化は、朝の 8 時から預かり教室を始めたこと。保護者の園全体に対するの評価は概ね良いが、少数意見にも耳を傾け、今後に反映させていきたい。	A	社会現象として、昔と比べて現在はモンスターペアレントが増える中、全ての保護者意見をとり入れるのは難しいと思われる。保護者に振り回されることのないようにしていただきたい。
-----------------	---	---	---	--

4. 今後取り組むべき課題

<p>地域との結びつきを考える</p> <p>園内での職員研修を充実させる</p>

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。